

実践報告

札幌市立富丘小学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

○本校では、「思いやりいっぱい心の学校」を学校教育の重点目標に掲げ、教師と児童、また児童相互のよりよい人間関係を構築していくべく、教育活動全般において実践を試みている。重点目標を達成するためには、性別等にかかわらず、児童が互いに他を尊重し合い認め合うこと、そのためには、教師自らも人間尊重の意識を向上させていくことが不可欠である。

(2) 実践の内容

【実践①】全校朝会について

○ねらい

思いやりに関するエピソードを全児童に語りかけることで、思いやりを意識したり、思いやりのある行動をしたりできるようにする。

○学習内容

5/1 相手意識をもつ

(6年生が5年生のために企画した、委員会オリエンテーションのエピソードから)

7/2 大谷翔平選手が高校時代に作成した目標達成シート

(思いやりをもつことが 160 km のスピードボールを投げることにつながる)

9/3 読み物「オオエンとムゼイ」(友情の物語)

10/1 通知表通信欄の思いやりに関するエピソードから

2/1 読み物アンパンマン「イタイノトンデケダケ」(思いやりをもって過ごすために)

【実践②】インターネットに係る地域密着型教育啓発事業について

○ねらい

中学校区 4 校の各学校において、スマホや SNS 等に課題事案があり、対応について児童生徒の安全に資するために、児童生徒・保護者・教職員を巻き込んだ研修の必要性を感じていた。そこで、発達の段階や小、中学校の接続を考慮しつつ、共通の認識に立った未然防止の観点をもち、指導に生かす。

○学習内容

8/21 小学校における日常的な指導のポイント(教職員編)

10/30 子どもとインターネットの問題を正しく知ろう(保護者・基礎編)

11/13 家庭での取組の理想と実際(保護者・発展編)

11/16 インターネットの問題を正しく知ろう(児童)

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 全校朝会は、思いやりを意識した教育活動のほんの一部ではあるが、一貫して思いやりを題材に児童に語りかけたことは、人権意識の醸成に有効であった。
- これから先の時代、インターネットに関わらないで生きていくことは、ほぼ不可能である。便利さと危険性を認識し、上手に付き合っていくことが重要である。講師の話が児童にとっても分かりやすく、学校としても取り組むべきことを把握できた。
- 性別によらない名簿について

日常の学校生活において、女子よりも男子が先に名前を呼ばれたり、順番は男子が先になったりということが無意識で行われていた場合が多い。しかし、思いやりの心を育てていく教育活動を通して、時と場を考えながら、男子が必ずしも先でなくてもよいという意識が、子どもや教師に醸成されてきたと考えている。

② 課題

- 「インターネットに係る地域密着型教育啓発事業」は、ピットクルー株式会社の方を講師にお迎えした。専門的な内容を分かりやすく伝えることができる講師であった。1年限りで終わらせるのではなく、人権教育に関わって、積極的な外部講師・団体の活用を検討していくことが大切であると考えている。
- 性別によらない名簿について

事前にアンケートを取り、教師が考えている課題を把握するところから始めた。

「整列するとき（健康診断等）は男女別なので、少しとまどうかもしれない。」「体力テストの入力や運動会でのタイム測定（リレーの選手決定）は男女別である。」「保健関係の名簿は、男女別の方が使いやすい。混合名簿と男女別名簿の2種類を作成する必要が出てくる。」等、配慮していかなければならない課題がある。

以上のことをふまえると、ただちに取り組むことは学校にとって負担が大きい。時間をかけて浸透させていく必要性を感じた。全市で一斉に取り組むことができると、スムーズに移行できるのではないかと考える。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 入学当初に6年生が1年生に関わったり、運動会で表現を下の学年に伝える活動、児童委員会活動やクラブ活動の全校のつながりを意識した活動等、日常の活動を人権教育という視点から見つめ直していくことが大切であると考えている。
- 地域と共に歩む学校、また、共有する教育課程の柱として、「インターネットに係る地域密着型教育啓発事業」は、地域の青少年健全育成会の事業も兼ねた。人権教育は、地域にも理解されやすいと考える。